

はじめに

地域の伝統芸能は私たちにとって身近な存在です。お祭りの際聞こえてくるお囃子はやしの調べや、それに合わせた演舞は祭りの際、なくてはならない存在であり、今後も継承されることが望まれる町の宝です。しかし、その継承は、少子化や地域社会に対する住民の考え方の変化、さらに近年猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、容易ではなくなりつつあるのが現状です。

文化財保護審議会では今回、「箱根ヶ崎獅子舞はこねがさきししまい」のパネル展示を行うことにしました。この芸能の歴史は160年以上にもおよび、その文化財としての価値から昭和48年(1973年)3月に、瑞穂町無形民俗文化財に指定されています。現在、この芸能は「箱根ヶ崎獅子舞保存会」により継承されていますが、演舞を目にする機会が減りつつあるのが現状です。本展示は、町民の皆様はこの獅子舞のことを知っていただき、多くの町民の方に親しんでいただくことを目的とし、企画されました。「箱根ヶ崎獅子舞」に関するクイズも準備していますので、展示をご覧いただいた上でご参加いただければ幸いです。



第25回産業祭りにおいて
(平成7年 下師岡公園)

パネルを読んでから、
クイズにチャレンジしてみ
てね！



令和5年11月
瑞穂町文化財保護審議会

箱根ヶ崎獅子舞の歴史

箱根ヶ崎獅子舞がいつ頃から演舞されるようになったかは、よくわかっていません。現在の埼玉県所沢市岩崎地区から伝わったとされ、瑞穂町に残された獅子舞に関する最も古い資料は、江戸末期の安政^{あんせい}4年(1857年)の獅子^し頭^し再^が建^し寄^ら進^い帳^{けん}になります。この資料から、旧箱根ヶ崎村内の中組^{なかぐみ}と上宿組^{かみじゆく}の人々から寄付を受け、演舞に使用する獅子頭が新調されたことを確認することができます。村内で起こった火災で獅子頭が焼失してしまったため、新調することになったようです。つまり、少なくとも現在から166年前に、箱根ヶ崎獅子舞は演舞されていたのです。その後、幕末の混乱で、元治^{げんじ}元年(1864年)に一旦中断されたものの、30年後の明治26年(1893年)に再び演舞が行われるようになり、今日に至っています。



加藤神社での演舞(昭和23年(1948年))
(瑞穂町郷土資料館収蔵)



瑞穂町内を巡る獅子舞(昭和50年代)
(瑞穂町郷土資料館収蔵)

箱根ヶ崎獅子舞と日本史



ペリー^{ていとく}提督

ワタシが日本にやってきたのは、
嘉永^{かえい}6年(1852年)のことデス。その頃には
もう箱根ヶ崎の獅子舞は演じられていたのデスネ。

私が桜田門外で暗殺されたのは万延^{まんえん}元年
(1860年)のことじゃ。大政奉還^{たいせいほうかん}が慶応^{けいおう}4年
(1867年)のことじゃから、獅子舞が中断した時、
世の中はさぞかし混乱していたことじゃろう。



大老^{たいろう} 井伊^{いい} 直弼^{なおすけ}

箱根ヶ崎獅子舞の特徴

箱根ヶ崎の獅子舞は「^{ご こん ほうじょう}五穀豊穰・^{あまご}家内安全・雨乞い」などを祈願する目的で、舞われます。東京都多摩地域では獅子が三匹舞う「三匹獅子舞」が一般的で、瑞穂町でも^{おじし}雄獅子二匹、^{めじし}雌獅子一匹が演舞に登場します。また獅子頭についても、^{しか}鹿、^{いのしし}猪、^{きりん}麒麟、^{りゅう}竜などの種類があり、瑞穂町は竜頭が用いられます。箱根ヶ崎獅子舞に独特なのが、「^{そが}曾我兄弟の^{かたき}仇討ち」が演じられる点で、このような例は他の地域ではみられません。それでは、「箱根ヶ崎獅子舞」どのような順序で演舞がおこなわれるのでしょうか。



棒遣いによる演舞
(平成7年第25回産業まつりにて)

1. ^{くさりがま}鎖鎌、^{なぎなた}長刀、^{ろくしゃくぼう}六尺棒を持った4人の棒遣いが登場し、「曾我兄弟の仇討ち」を演じます。

曾我兄弟の仇討ちとは？

建久4年(1193年)、^{みなもとのよりとも}源頼朝が行った富士の巻き狩りの際、^{そがすけなり}曾我祐成・^{そがときむね}曾我時致兄弟が、父親の仇である^{くどうすけつね}工藤祐経を討った事件。日本三大仇討ちのひとつ。



三匹獅子による演舞
(平成7年第25回産業祭りにて)

2. 棒遣いによる演舞が終わると、獅子舞が始まります。演目は10庭あり、以下の順序で演じられます。

1. 道行(笛)
2. 入は(笛)
3. くるい(笛)
4. まわれや車(唄)
5. 歌がかり(唄)
6. ^{めじしがくし}女獅子隠(唄)
7. 岩くだき(唄)
8. ^{めじしあそび}女獅子遊(舞)
9. 松山の(唄)
10. 日がくれる(唄)

箱根ヶ崎獅子舞の構成と近年の活動

雄獅子頭
(太郎)

雄獅子頭
(次郎)

雌獅子頭
(花子)



獅子舞再興時に用いられた獅子頭
(瑞穂町郷土資料館蔵)

獅子舞の演舞には以下のメンバーが必要です。

配役	人数	備考
天狗 (はいをい)	1	
棒遣い	4	
雄獅子	2	
雌獅子	1	
ささらすり	4	
笛	4	
唄	4	

昭和40年代以降、箱根ヶ崎獅子舞は町域内外でさかんに演舞されました。昭和47年(1972年)にはNHK「スタジオ102」に出演し、その後、平成3年(1991年)には、第26回東京都郷土芸能まつりに参加し、都民芸術フェスティバル(平成5年(1993年))、多摩有効年市民ワールドバザール(平成5年(1993年))、拝島大師奉納(平成6年(1994年))、箱根ヶ崎駅舎新築落成イベント(平成17年(2005年))などで演舞されます。しかし近年は、メンバーの不足が原因で、演舞が困難な状況にあります。今後、演舞がまた行えるよう、地域で箱根ヶ崎獅子舞を盛り上げていきましょう。